



# 宇大スタンダード+α

『とても役に立っている』『概ね役に立っている』の合計値

『在学中に身についたと感じ、実社会に役立っていると感じている力』は、「論理的思考力」「情報活用力」と答えた方が多く、「専門分野に関する知識・技能」については、どの学部も他の6つの力に比べ、「役立っている」と感じている方が少ないという結果でした。

■ 地域デザイン科学部 ■ 国際学部・国際学研究所 ■ 教育学部・教育学研究科 ■ 工学部・工学研究科 ■ 農学部・農学研究科 ■ 地域創生科学研究科

## 宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

令和6年度  
卒業生・修了生アンケート結果報告

## 実社会に生きる 在学中に得た「力」

本学の卒業生及び修了生の活躍している地域や分野における就労状況等の実態及び本学の教育活動等において身についた力、実社会で役立っている活動、改善点等の把握を行い、教育改善の取組に活用することを目的とし、令和2年3月に宇都宮大学の学部・大学院を卒業・修了した方(本学大学院への進学者を除く)にインターネット調査を行いました。ここでは、アンケート結果の一部について、簡単にご紹介させていただきます。

### 調査対象

#### 調査対象:

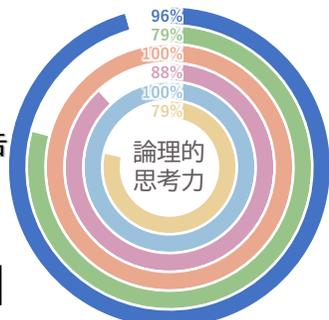
令和2年3月学部卒業生(本学大学院進学者を除く) 632人  
大学院修了生(本学大学院博士後期課程進学者を除く) 359人  
計 991人

#### 調査期間:

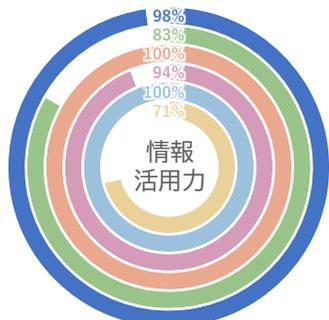
令和6年9月24日(火)～  
令和6年10月31日(木)

#### 回収状況:

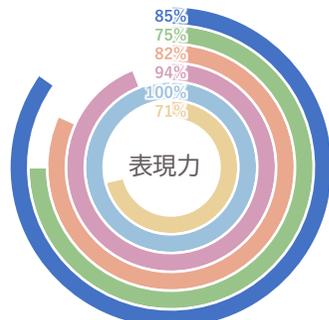
卒業生 106人  
修了生(MC) 54人  
修了生(DC) 2人  
計 162人



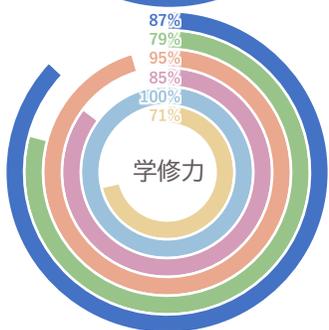
筋道を立てて論理的に物事を考える力



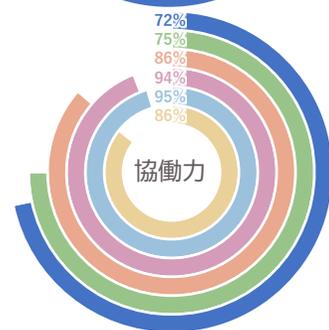
情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する力



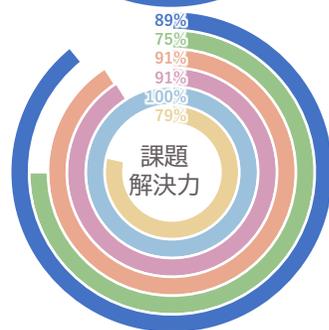
感情や思考など伝達可能な形式に表し、効果的印象的なものとして伝える力



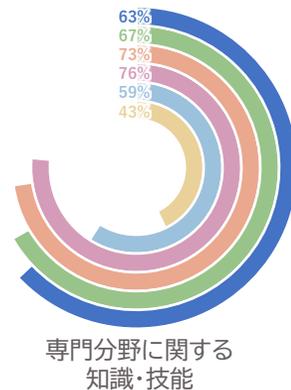
一人称で物事を捉え自ら行動し、進んで新しい知識・能力を身に付けようとする力  
変化に対応し、自らを変えようとする力



チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力、多様なもののつながりや協働を生み出す力



多面的な視点から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力、課題解決に向けた計画を立案し、自律的に取り組む力



## 在学中に経験した 有意義な活動

### 自由記述の概要

在学中に経験した活動のうち、実社会において役に立ったものを集計したところ、「アルバイト」や「部活動・サークル活動」が上位となりました。自由記述においては活動内容に関係なく、活動とおして人脈を築くことができたことや実践的な社会活動を経験することができたことを評価する回答が多く見られました。「コミュニケーション」「関わり(関わった)」という単語の使用頻度が高いことから、普段は関わることのない多様な社会的な人材と接した経験が社会に出てからも役に立っている方が多いことがわかりました。

## 教育活動等で役立っている点

### 自由記述の概要

本学の教育活動等で役立っている点の自由記述内から学生の関心度が高い単語を抽出したところ、最も使用頻度の高かった単語は「実社会」、次いで「探求」「研究」「知識」などという結果でした。文章全体としては、英語を含む多言語の学修やグループディスカッションを取り入れた学修に言及する回答が多く見られました。

## 教育活動等で改善すべき点

### 自由記述の概要

本学の教育活動等で改善すべき点の自由記述内から学生の関心度が高い単語を抽出したところ、使用頻度の高かった単語は「科目」「カリキュラム」「学校現場」などという結果でした。分野により具体的な内容は異なるものの、より実践的なカリキュラムを整備し、就職先の実務に活かせる知識を学ぶ機会が求められていることがわかりました。

## 令和2年3月宇都宮大学卒業生・修了生アンケート実施結果

〔アンケートについて〕

本調査は、本学の卒業生及び修了生の活躍している地域や分野における就労状況等の実態及び本学の教育活動等において身についた力、実社会で役立っている活動、改善点等の把握を行い、教育改善の取組に活用することを目的としている。

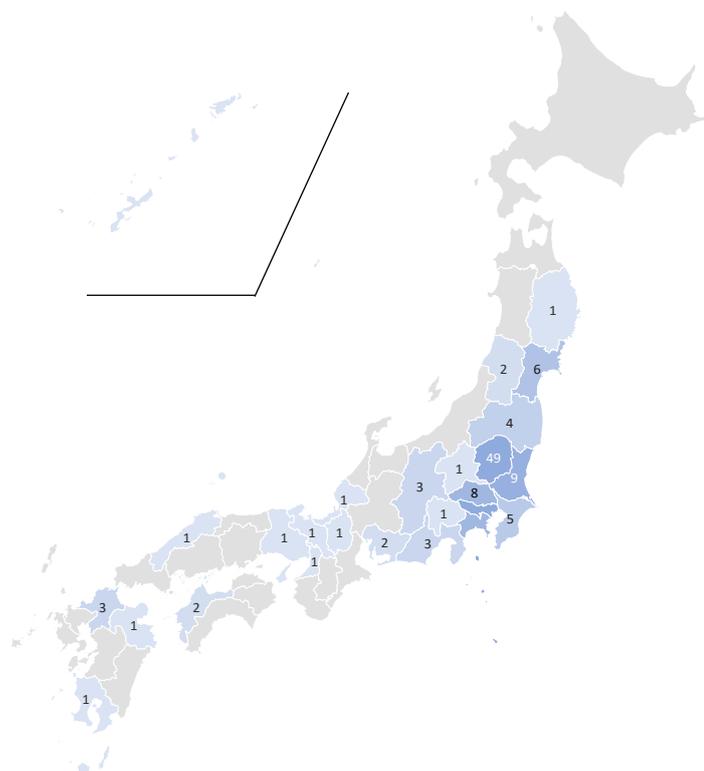
本年度のアンケートの対象者は、令和2年3月学部卒業生(本学大学院進学者を除く)632名及び大学院修了生(本学大学院博士後期課程進学者を除く)359名の計991名とし、調査対象者(教務システム登録済アドレス)あてに、Microsoft Formsによるインターネット調査(令和6年9月24日(火)～令和6年10月31日(木))を行ったところ、162名から回答を得た。

所属学部・研究科		調査対象者		回答者数		回答率	
地域デザイン科学部	学部	86	632	14	106	16.3%	16.8%
国際学部		99		21		21.2%	
教育学部		169		30		17.8%	
工学部		116		18		15.5%	
農学部		162		23		14.2%	
地域創生科学研究科	博士前期課程 専門職学位課程	316	345	46	54	14.6%	15.7%
国際学研究科		1		1		100.0%	
教育学研究科		19		4		21.1%	
工学研究科		6		2		33.3%	
農学研究科		3		1		33.3%	
国際学研究科	博士後期課程	1	14	0	2	0.0%	14.3%
工学研究科		13		2		15.4%	
計		991		162		16.3%	

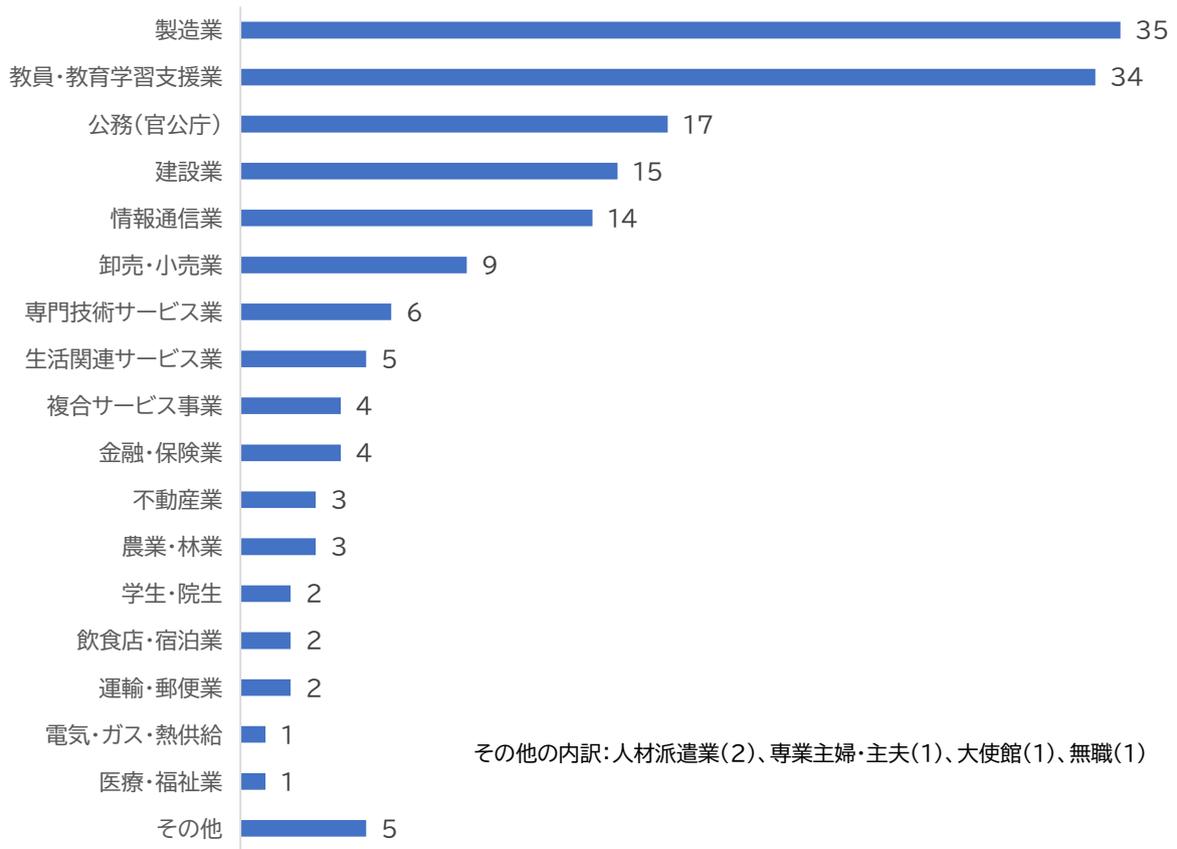
〔アンケート結果〕

●現在の勤務地等の所在地について該当するものを選択してください。

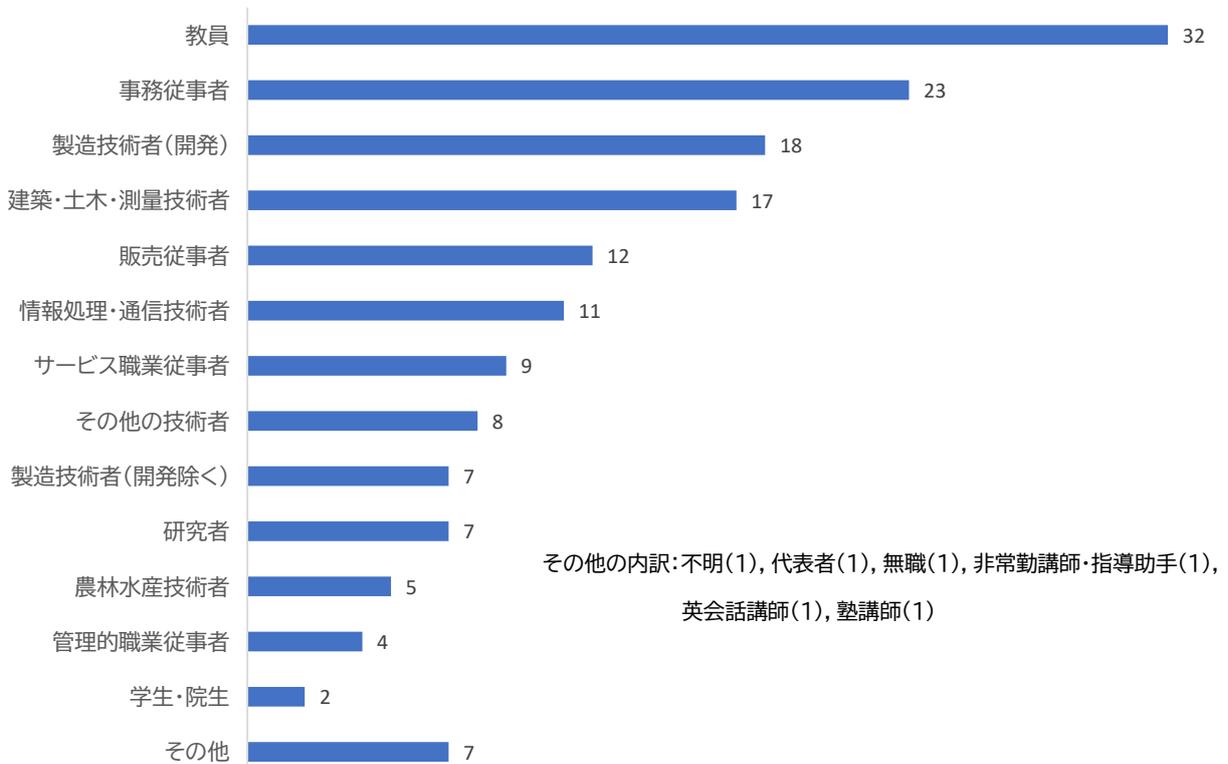
都 道 府 県	回 答 数
岩 手 県	1
宮 城 県	6
山 形 県	2
福 島 県	4
茨 城 県	9
栃 木 県	49
群 馬 県	1
埼 玉 県	8
千 葉 県	5
東 京 都	41
神 奈 川 県	8
福 井 県	1
山 梨 県	1
長 野 県	3
静 岡 県	3
愛 知 県	2
滋 賀 県	1
京 都 府	1
大 阪 府	1
兵 庫 県	1
島 根 県	1
愛 媛 県	2
福 岡 県	3
大 分 県	1
鹿 児 島 県	1
沖 縄 県	1
そ の 他	5
総 計	162



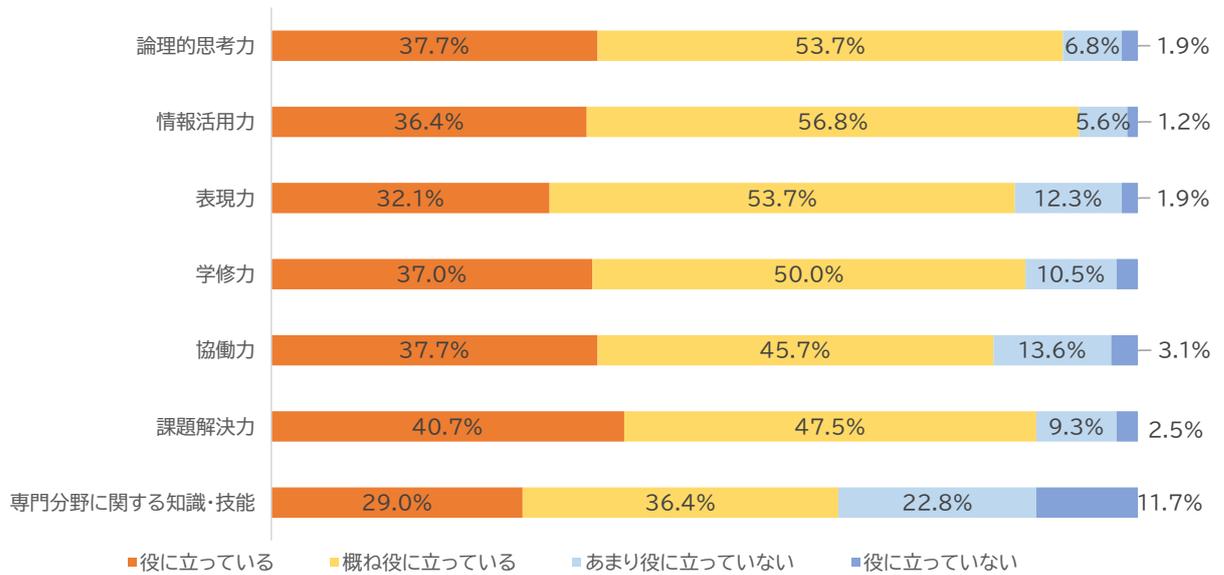
●勤務先等の主たる業種について、該当するものを選択してください。



●現在の職種について、該当するものを選択してください。



●在学中(大学院修了者は学部時代を含む)に身についたと感じる力で、実社会において『どの程度役に立つか』該当する項目を選択してください。



●在学中(大学院修了者は学部時代を含む)に経験した活動で、実社会において『どの程度役に立つか』該当する項目を選択してください。

